

特57
904

東 京 京 東 圖 書 館

新 書 門

十 五 部

部 類 函 架 號 冊

宮 撰 末 社 獨 案 內

014701-000-3

特57-904

宮撰末社独案内

河崎 清厚/編

M17

ABB-1142



特57

9704

此書の吾内外の

大意をばりて持来社頭拜々

志ありし人のこゝに社の

決まりありしに説きま

せしむるなり

社の神代傳号の識者の

説くべきこと今の内言儀或帳

倭姫世記神名秘書等々

まゝに記すなり

伊佐奈社と白鳥社と

の事ありしに記すなり

人の事ありしに記すなり

延喜式
神代傳
考

是の如くして、
おけしは類程ありしごとくお供
しむるべし

宇仁社、宇尔忍姫社、天海回
水代大刀自社、宇尔櫻社、火地
社、掃田槻幸社、ちのびの槻末社
のちのびの槻末社、是まごころ
指つるのちのびの槻末社、
延喜式内の清社、おれが今更
除くんぬらごころのちのびの槻末社
扱末社のちのびの槻末社、おれ
宮後式解、まごころ神境記程あり

の書、おれが今更

千人引磐石の常彰神主の
勝地廻覧よ二十年なるより以前
より、おれが今更
おれが今更、おれが今更、おれが今更
末社のちのびの槻末社、おれが今更
治らるるおれが今更

○ 社 外宮後式帳扱社
十六社の中

社 ○ 外宮後式帳末社
八社の中

社 外宮末社神祇本源
おれが今更の社の中

□ 社 内宮後式帳扱社
廿四社の中

社 □ 内宮後式帳末社
十五社の中

社△ 内宮未社年中行事
おこなはるる社の中

0 社 西宮附之社の中

別宮ハミミ處ニ志スル

外宮地廻 一日

内宮地廻 一日

二見廻 一日

久具廻 一日

大淀廻 一日

宇仁廻 一日

田丸廻 一日

磯部廻 一夜泊

野尻廻 一夜泊

外宮地廻 一日分

外宮御本宮

豐受皇大神

東 皇孫瓊々杵尊

相殿 西 天兒屋根命

天太玉命

度會地護社 土宮の北 兒社云

土宮 外別宮

土御祖命

宇賀御魂命

大歳命

山祇社ヤマノカミ

土宮のち

大山祇神オホヤマノカミ

檜曲中松原社
檜曲五連坐

下御井社シモミヅ

同處

天間象女神アマミツハシメ

高宮タカミヤ 外別宮

豊受大神荒魂

風宮フウミヤ 外別宮

級長津彦命シラカ

級長戸辺命

東の方坂へのち。

高倉山岩窟イハヤ 天岩戸アマノイハ

大己貴命オホナムチ

天日別命

休所の後より南の道へ谷を

かりは合より田のちのちへ

ゆて大道へち。

度會氏社トクイノウヂ 氏神村の西のちのち

天村雲命

水のちへちへ豊宮トヨミヤ 豊宮

○田上大水社 丸山マルヤマ

大神主オホカミヌシ 小事シゴト

前社マエノミヤ 宮子ミヤゴ

水の道へちへちの道へちへ

○山末社

大山津姫命

宮山側と云くは井原松久宮を
池より豊多崎文庫のあり

○大國玉姬社 大黒谷と云

大國玉命

佐々良姫命

伊賀利社○ 同所南の祖

伊賀利姫命

同所じしらの森の中と云らる
岩戸なる出る

客神社

建御名方命

高神社 同所西の方

速日丹方命

右社地の板橋と舟坂と云る

苗社

相社 箕曲中松原神社
城内に遷坐

二多子居のあり出る

五丈殿のうらと通り末社

道へつゝ

御供殿

御裏御門

幣帛殿

子良館のあり出る

北御門社

宮中への入口

若雷命

箕曲中松原社
城内に遷坐

西の道へすくまひる社の前
度會國御神社

彦国見加伎建与東命

西の乃毎系の中より四の切り
藤巻山の禁

上御井社

忍穂井と云

天二上命

田の例りと通り西世古く出へ
大間度あのもく北例

○大間社

大若子命

○國生社

同玉垣の内
西

乙若子命

○草名伎社

同森の内
西の社

標劍代

大つる度中後北

○清野井庭社

草野姫命

あつち世古より

野乃の

落合社

落合の山神

さる向村中後

○宇須乃野社

宇須乃女神

宇賀御玉神

同村北のたりの森

毛理社○

大根社と云

句々廻馳命

同村がー東の森堤と云

アガタ
縣社○

かづ社と云

秋毘女命

堤邊の長谷村と云の山林村と云

經々溪橋と云の村と云

右の方の森

志寶屋社○

鷗の森と云

ワタヅミ
海童神

海神と云

大磯屋二町と云の村と云左の方の

畔と云の村と云の村と云の村と云

就鳥取清水旧趾

ワタヅミ

大磯より神社と云の村と云

よりかろ切と云の村と云

と云の村と云の村と云の村と云

下谷と云の村と云の村と云

にかり下野村と云の村と云

神社と云の村と云の村と云

よりと云の村と云

神社村南の川原の森

○御食社

速秋津彦命

大御食津姫命

神社とありしより行々白鬼なる

わらふ村と左より西の森

大津社○

七草舞の社

タオキホオヒ手置帆カ員命

為の方へり新田村の乾の森

○河原大社

川神水神

捨尻橋原の森

○河原淵社

沢姫命

多後町水の

月讀宮 外別宮

月夜見命

荒魂命

○高河原社

同森の内
東の方

月夜見命御玉

右邊の四里半

内宮地廻

一日分

浦田坂より宇治入口門前

より西の方へ入て南に谷

葦原多氏社

湯倉

玉移良姫命

宇治中切町東の川端

那自賣社

山ノ神

大水上御祖命

同御玉

御裳乃須曾姫命

法樂舎の例より畑町へ西の方

津長社

拙長姫命

大water社

同野南の祖

大山祇御祖命

畑町と南の方より谷へ入る

出五十鈴川の例より谷へ

御贄小屋一の瀬を石つた

五十鈴川の例より神社の

お籠るありけ向の森

熊淵社

多伎大刀自神

例より神のお籠る

例より谷の方へ入る

新川社□

新川姫命

鏡石社△

同玉垣の内
西の方

鏡石^{ミヨ}三^サ九間をうり幅十二間^シ

谷^ヤへりりてらん^シ

御贄小屋の^ミお載^カるの^カを^カう

東^ヒは^ヒお^カ回^カれ^カち^カを^カう^カり^カ小^コ流^リは

つ^ツり^リ富^ト山^{ヤマ}へ^ヘ同^{トウ}言^{ゴン}の^ノり^リし^シり^リぬ

方^{カタ}は^ハ是^{コト}より^{ヨリ}宮^{ミヤ}中^{ナカ}

風日^{フウニチ}祈^{イノ}宮^{ミヤ} 内別宮

級^シ長^{ナガ}津^ツ彦^{ヒコ}命^{ノミコト}

級^シ長^{ナガ}戸^ト邊^ヘ命^{ノミコト}

風の^{カゼ}も^モや^ヤれ^レ橋^{ハシ}と^トり^リり^リて^テ左^サの方^{カタ}

瀧^{タニ}祭^{マツル}△

石^{イシ}積^{ツキ}り

澤^{サハ}女神^{メカミ}

川^{カハ}相^{サイ}社^{シャ}△

同^{トウ}野^ノ南^{ナミ}の^ノ石^{イシ}積^{ツキ}

細^{ホソ}川^{カハ}水^{ミヅ}神^{カミ}

子^コ良^ラ籠^{カゴ}の^ノ糸^{イト}より^{ヨリ}本^{ホン}道^{ミチ}へ^ヘ出^デく

御^{ミコト}橋^{ハシ}拜^{イハヒ}所^{トコロ}

外^{ソト}宮^{ミヤ}と^トお^オい

内^{ウチ}宮^{ミヤ}御^{ミコト}本^{ホン}宮^{ミヤ}

天^{アメ}照^{テラ}皇^{ミコ}太^タ神^{カミ}

相^{サイ}殿^{テン}

東^{ヒガシ}

天^{アメ}手^テ力^{チカラ}雄^{オス}命^{ノミコト}

西^{ニシ}

栲^{タク}幡^{ハタ}千^チ々^{ツツ}姫^{ヒメ}命^{ノミコト}

西の多層へ出く幣帛殿の横を

より御稻御倉御供殿の南を

奥玉拜所△
本宮荒垣乾隅
宝殿あり

猿田彦大神

御裏御門の南を

荒祭宮 内別宮

皇大神荒魂

宮中とよみく御厩より後町に

おひらき

大山祇社△

山神とよみ

大山祇命

子安社△

山神のまほろ

河原町へ越えり山のおけ方なるより

右の山と

岩井社□

岩社とよみ
宝殿あり大志

高水上命

河原町へ中程右の方岩井田山

荒木田氏社△

天見通命

守武霊社

氏社のまほろ

そば川系の橋を渡りまほろなる

中村の西のまほろのまほろ

奥玉神社△

猿田彦大神

さぐみおしを所の中より産神
の森はまよりまの道へあり
月讀の森は赤土の芳乃原の
教まのりぬ森

葭原社ヨシハラ □ イガイの森

佐見津彦命

伊賀利姫命

宇賀御玉御祖命

月讀宮 内別宮

月讀命

荒魂命

伊佐奈伎宮 内別宮 同森西の方

伊佐奈伎命

伊佐奈美命

月讀の森のまのり西よりあり
しるふの田中しあま地

水取社モト モリが森
宝殿

水戸神

とまのり楠部村のりぬ侍の森

皇女森 宝殿

伊佐奈弥社の回廊しるはま

くまのりしるはま

楠部村の森しるはま右はまの
森

宇治乃奴鬼社 □ 田上宮

高水上命

摺のまは地際のみ

□ 大土御祖社

大國玉命

佐々良彦命

佐々良姫命

□ 國津御祖社

同森
東の方

宇治姫命

村田姫命

楠部川の摺まはつらつら

りてかのまはゆく麻海の摺ま

わらうま麻海のまは地

まは川名の森

鏡宮△

日月御鏡

川名の森

俣満はまは川名の森

と

□ 朝熊社

櫛玉命

櫻大刀自神

大歳神

苔虫神

大山祇神

朝熊水神

鹿島の橋まきるるいあつて
堤まきる一丁をうらひあつ
る田中の森

加奴弥社□

西麻海産神の
森のまきる
まきる

稻依姫命

古道の四里斗

二見廻 一日分

久志幸村のふのけり川を乃
森

箕曲氏社

あつれ社と云



二見桑原町の森楠の森の
あつれまきるあつれまきる
出口社に通うぬけりまきる
森

堅田社□

佐見都姫命

二見浦まきる時まきる奥玉石

とていふに村にあり南へ浦のあり
あ南の祖の妻

□江神社

海後の村にあり

長口女命

大歳御祖命

宇賀御玉命

江村より伊予今浦栗皇子社へ

船ついでちもす一風めがく村

船後して載て松平村天王の持

もの持入二町にあり

ちの松平村にあり

十の町にあり

南へ浦のあり

松平の浦にあり

□栗皇子社

松平村のあり

道主命

江平の浦にあり

あれも浦のあり

大難野のあり

松下天王の持

海平の浦にあり

山の浦にあり

許母利社□

松平村のあり

栗嶋神御玉

同所より一里半の所に

カウガキ
□神前社

カウガキ
荒前姫命

潜嶋 同所より後へ三丁半

東の方面

あはらひの森の間にあり

向の海半の間に

下向海邊の間にあり

なる所あり

又此村の間にあり

ぬの義盛の間にあり

あり八丁の間にあり

二見の間にあり

○御塩殿 在村の東に

それより後へ一丁あり

常明寺あり

神萱落社 門内あり

妙見町中程の間にあり

尾上社

倭姫命

吉野の間に一里半あり

久具廻り

一日分

小川町入口上社の側もあり

○志等美社

鹿葦姫命

○大河内社

大山祇命

打懸社

埴安神

大倉村に於て佐八村に於て
左の方の森

□河原社

月讀神御玉

佐八村に於て津村の森
谷多へつらふ友の森

□園相社

曾奈比彦命

津村の西とある川に於て
村川に於て川の
り向の森の
川側の森に
ト久具とて山側梅林を

ゆゑ申のふらとあゝり寺の
あふらとあゝり久具の
弁天ありあふらとあゝり北
ゆゑの右の方よるる森

□久具都姫社 上久具村のふ
川例あり

久具都彦命

久具都姫命

社のまゝに「檜」のまゝに「糸」のま
「糸」のまゝに「糸」のまゝに「糸」のま
舟まゝに「糸」のまゝに「糸」のま
あふらとあゝりあふらとあゝりあふらとあゝり
あふらとあゝりあふらとあゝりあふらとあゝり

右邊のまゝに「糸」のまゝに「糸」のま

舟「檜」のまゝに「糸」のまゝに「糸」のま
あふらとあゝりあふらとあゝりあふらとあゝり
あふらとあゝりあふらとあゝりあふらとあゝり
あふらとあゝりあふらとあゝりあふらとあゝり

大淀廻り 一日分

長谷村より磯の渡りと越え

磯村より

磯神社

八王子

下野後より

野依中社

と丹後より

野依河田社

まより、東大沼村、磯村、丹後

磯村より

大淀社△

豊玉彦命

倭姫命

森の内西の方駒除の所より

齋宮白女御禊の田路より

海老山、業平松より

まより、大沼村、丹後

佐々牟江社△

大歳神

けより、まより、業平松より

て、堤通の所より

たより、根倉社の所より

たよりの森

根倉社

保食神 ウケモチノ

西のよりいりて丹川村養田村
田島村志津村と経て小の
乃森 大垣内村伝あり

神服部機殿△

カミハトリノハタトノ
下機殿と云
又下箱と云

八千々姫命

森より西北に及ぶと

垣内田村の辰巳の森

須麻留賣神社

ツホカタ
形形社と云

天鈿女命 ウスマ

森より南に及ぶと魚見の

川崎村あり

魚見社△

イサミノ
塩巻社と云

豊玉彦命

豊玉姫命

月讀御王命

森の南に流るるに志津村の

おより南に及ぶと堤通の森

田中の森に及ぶと井口村

麻績機殿△

オミノハタトノ
上機殿と云
上箱と云

麻績屋姫命

森の南より東に及ぶと

坂本村と経て志津村の乾の

方の森

○齋宮舊跡

サイワウシウ
齋王宮

森の茶畑南へ一丁まをり
ゆづがみま村の大塚より
みいさみの森あり大佛の
まの齋宮と白ひり
まの大塚とみいさ村
まのの入り

○小俣社

ハ王子の妻

ウカノミタマイナ
宇賀御魂稻女命

右邊の七里と

宇仁廻り 一日分

小俣村へはよう左へ

○離宮院舊跡

中臣氏社

同ー森の内
春日社

タケミカツチ
武甕槌命

天兒屋根命

フツシメ
經津主命

タラシメ
拷幡千々姫命

森の中より西南のなから畑中
の西へ松原の山あり
の西へ松原の山あり
の西へ松原の山あり
の西へ松原の山あり

千人所引磐石

け社のたもとあからむわいあふた

田の中あの方にくるあ白森

湯田社

大歳御祖神

鳴震雷命

湯田村へくぐら地産の産物乃

あふりさへらしてあ例ああしり

又あふりさへらしてあ例ああしり

ねあふりさへらしてあ例ああしり

みの村あふりさへらしてあ例ああしり

宇仁社

ハネニ社と云
室敷やう

埴山姫命

又あ義村へくぐらあの方田中の

乃あゆ

鳥墓村神序舊跡

トツカ
鳥墓の園

又北へ田中の乃あらして宇仁あ

の西の乃あゆて森あはるあ

宇尔忍姫社

コナ林
室敷やう

忍姫命

ヒサ、池

森のありは南
室敷やう

はあ森ああの方あらしてあ

あ野ああの方あらしてあ

天海田水代大刀自神社

ウシダ
梅田の
室敷やう

豊玉姫命

宮敷あり

あの方より出て松系と連つぬや
斎宮より田丸の大道へ出る
乃のぬ例吉松より幸あるを
より西へ田丸の森

宇余櫻社

宇余櫻社
宮敷あり

木花開耶姫命

又方より出る出て大地の
所より出る中道へ南例を
して土橋より田丸なる宮
あつては土橋の御宮あり
よき事なり本堂後の宮

火地社

軻遇突智命

いまのよより出る河田なる御宮あり

向の境のがれに橋あり後川の上へ

橋なること法田村と西南へ連つ

ぬやと堰より法田村の西へ

林と出る大道出て土橋を南へ出

飯野高宮

山深村あり
入口より出るあり

神守あり

と森のよより出る御宮あり

ぬや安樂村なる大津より出るあり

きよみ村の大道へ出るあり

大櫛田社

櫛田の森
美木の宮の森

大若子命

此森の東側山ノ尾は北ノ
口五丁ゆく櫛田村の西田中ノ森

櫛田社△

こゝ社

櫛玉命

東南ノ道ノ畔通ノ森と目めては
立智ぬまぬしうよぬる

櫛田槻本社

此森と東ノ出て境ノ西ノ
後ノ道ノ大道あり

右道のノ七里まで

田丸廻リ 一日分

川端と出ておれぬ東ノ
栗野村の森より北ノ松村の

か。道は松村の中

小社神社□ 雨の

高水上命

此森の東ノ宮古村ノ森
こゝ櫛田の東ノ道は松村

□ 櫛原社 ヤクラ堂

那良原姫命

森と出て櫛田の南ノ
櫛田村の南ノ道より南ノ森

カモシモノ

鴨下社

宗教なし

石巳呂居鴨彦命

森の西は邊々南に田宮村は
通ぬけは左の邊々村持たて
お宮のまゝ左に。石巳呂
かろのあつて樹木のまゝ
まゝ谷水はまゝ左に。石巳呂
よゝいぢの縁ひ

鴨社

谷水

石巳呂和居命

山神村の邊々村のまゝ
村と通ぬけは野々のまゝ

津布良社

宗教なし

津布良彦命

津布良姫命

積良村の入口まゝ
幸神は左の邊々村のまゝ
おべー丁をうり

村の西南の森氏神の北

田乃家社

大神御滄川神

け村の中程まゝ
か川の邊々通ぬけは

坂野松原の東を舟入の所

より舟入して坂野村の北の森

□ 坂野社

坂の森云

大神御蔭川神

は社の東より北の田の端小川

はらひて西の村の入口

□ 御船神社

大神御船神

御船の社の北の森

牟弥乃神社 □

美高云

寒川彦命

寒川姫命

は社のおより北へさへて例とむた

田丸より相可への大道へさへる田

村のゆゑ大道はたのま小島のと

□ 棒原社

スキハラ
杉社云

天須麻留安命御玉

大道と東へり田邊村とむたるの

北の小島の中瀬崎の東の端

□ 坂手國生社

高水上命

まゝの大道へ度へく二三丁東へり

南側の森

但一かゝりて道より入る

荒木田氏社△

氏神社云

天見通命

大道谷田丸へ出く菅町の南側
の森

□挾田國生社

ハヒコ社云

速川彦命

速川姫命

山末御玉命

右邊のま七里云々

磯部廻り一夜泊り二日分

今路中之切より新橋より
川原町中宿より東南の山道より
山神の上朝熊道に合する所は
沖誓小倉のお宿より山物を引
かす

一之瀬を越るとより杉坂山神
集をわたり谷を淵廻り茶
を宿るとし所より山へ出てたの
方より山神の社あり

逢坂南へ入り坂より杉坂あり
左の方より後より猿田彦社あり

左のふへ谷と二丁とてと滝の宮
清池のかつ元雞所なり林の
やとてれ茶を盛らるる

鼎石 カキ 乃よりち二丁
鸚鵡石 アフラム 乃より左二丁

惠利原村とて破却本郷の
入口の大楠あり

伊雜宮 内別宮

遥宮
皇大神御魂

本郷より八丁西南川を過り
稻のとれ小島

穗落社△

高宮

保於止志神

磯部本郷より向の

翌日五智白木松尾岩倉舟津

とて島廻り也

但一舟津しりよう船か

しりあまのちを渡りしり

一船かしりしり

又磯部より青峯へ廻り

きりしりしりしり

舟津よりしりしりしり

入江の崖の森

赤寄社○

多の明後山より
八丁赤

荒前姫命

そとより城下へ出て日新のちのて
見物して望神村大上栗谷^{オホカキ}に
るく船越村へ出

右二日分のりの十里あり

作破の湯への旅火にやのくま
るの船の旅火よあふれり船越
めて赤寄由用まする

野尻廻り一夜泊

田丸より熊野道より野尻松原と
る。原村の入口よりたぐりて丁
あまのりあいの森

□朽羅社^{クワラ}

宮田の森と

千依姫命

け森のちのりあふれりて小川に
つらとあふれ庄村へ入てたぐり
野中村大道へ出て辻合のちの
方。吉野道へ入り神田村^{ジコタ}と経て
佐奈の仁田村の西のくー大道
の左脇の森

佐那社

宮野

手力雄命

猿田彦大神

け森のおまう大造と西のり手谷
村と連のぬけお村よりなく橋を
つらぬまかしく谷と谷へお村へ
あるまより又熊野道なり

三波川舟渡りのま。坂とのま。

道の太極

□多伎原社

三瀬社

麻太胡神

三瀬坂の越る野尻村

瀧原宮

内別宮

遥宮
皇大神御魂

竝宮

内別宮

同森
西の方

遥宮
皇大神御魂

若宮社

同森
東の方

大田命

長由介社

同森
東の方

猿田彦大神

河嶋社

同所
滝川の水底

水神

野尻まき泊る猿火ふまき

但一往来乃筋猿火の音笛用事

右佐奈奈谷の舟にて道の十里才

伴一舟夜舟と称して海の

ま川まての舟より一船かう切

船十の位あり船より海へ

ま渡るに上久具村 久具津姫社

津村園相社 佐八村 川原社も系

おかげ

河崎氏藏板

附録

是より次から其の神楽の目録あり

くしなまのまのまの神楽本原年中

行事におつれは今のま所の名洋

と云ふといへるまのまのまの

と云ふといへる島(は)り

○志等美社○大河内社打懸社○
の舊跡 本文の當時上社城
内ニ遷坐

右二社と矢幡社といはれたる目録あり

はくまのまの牛頭天王社 上之郷の
まのまの

おまのまの波社地のおに昔の

川筋の路も路のまのまの矢幡網

とよしりーた海もてんて其あひ
よのの田畑の古文書なるいふも
矢嚮社あると云きまーしむる
持はしむる家もあひしり

○草名伎社舊跡

園野園跡之中河系東北の園
のまよ^{アサナ}ナゴサと云ふ所の古巻
草名伎社の旧跡と云ふナゴサと
ナナギの祀あり神名秘書に
大間社の西と云ふ所たかれ
アサナ

○清野井庭社舊跡

社の旧跡は下中野の今社が
はー光の寺の古文書の井庭
村といふ所なりかひ社と今村
社といふ井庭といふと云ふ
昔のころは且大間社と云
むと社名を添よるいふか如
く〜杉村光基といふ

園神社

この向村ある宇須乃野社の祀共
まゝと社名を添よるいふ今不詳
神計社

まゝ向村園社といふと社名を添

みわれと今五律

槐本社)

まの村か毛脚の里まのまの神社
本源よりまの今五律

東御門社)

沼本社の辺りに在り神社本源
みわれと今五律或まのまの

鳥居の傍ちの神社まのまの

御田口社)

社の四路のまのまの槐の
まの神社本源の傍道西のまの
まの社のまのまのまの

今五律のまのまのまの神社

高野のまのまの神社まのまの

まののまのまの神社のまのまの

まのまのまのまのまのまの

神社本源のまのまのまのまの

まののまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

御田口社の南よまての山
のふもとに伊弉清直の

○山末社舊跡

は社の旧跡の今の大石谷の
小梨谷よまての山に
人たふのふもとにオノ
あふふと光基の

離宮院並○高河原社舊跡

西河原町のたぐ敷草の
しるべきは河原社の
はわらう今の小俣村の
しるべきの旧跡の

箕曲氏社(舊跡)

岩淵町の箕曲社の
この神祇本原は箕曲郷和泉掾
居留西よまての

法道社

箕曲物部近末居留乾の
神祇本原は今の法成
箕曲町の南東の
一本の

大水社

この今中島の
源よまての

林社)

継橋郷藤田村よみて神祇奉
遷よりのこと詳

小部御社)

尾上社同名社と神祇奉遷よりの

○河原淵社 ○河原大社舊跡

船江にある船江社上之社是河原淵

社の由緒を杉尾ある河原淵社の

河原大社の由緒ありとのことは

あつても河原町の會所なる隣

ちの八王の社はつおうの社

上之社の社ありとのこと

伊賀戸社)

内宮月讀宮の北よきを神祇奉

遷よりの今内宮月讀の社あり

イガヒの森と陵の社ありとのこと

是はイガヒの森とイガヒの社あり

是はイガヒの森とイガヒの社あり

陵の社あり大杉谷久豆村ありは定

社ありと森ありと伊賀戸社の由緒

あつてもイガヒのイガヒの社あり

且伊賀の社ありと伊賀の社あり

の社ありとの事ありは伊賀の社あり

と伊賀の社ありとの事ありは伊賀の社あり

かしく伊加美社の事一其旧地ハ
 王孫池の橋と云ハつた方の事
 回の字アサナイカタといひて板一幸生
 する事ありたつたれハ幸生ハ月
 後の事と云ふ事ハ

宇治山田神社□

後武帳より伊佐奈弥社と除てけ
 社名の社地名詳儀式解の中
 村奥玉森の爲南中人神の瀧の
 北岸ニ杉木有る所ナリ同村
 火焼の里の事ハ毎年二月十二日
 祓宜爲つる石疊ニ森あり是

の事ハ参考ナリ

八王子社△

中村の産神是事ハ同森
 の西の方ニ天神社もあり

所御社△御子社△

内宮月讀宮城ニありしハ
 應永頭工日記よりスルナリ

一イナラモ元神社△

年中祈事ハ出たり大土御祖社の事
 かもおのりておのりておのりて
 何れもありし事ハ一不詳

毛モ受ズメ女神社△

宮中末社遷拜所其地は

宮内省の西のふもと馬場と云

の下の末社のも遷社してあり

揚田社△

年中行事にあつて津長社乃

近所ありと云ふ不詳

山宮社△

宮中末社遷拜所其地は

旧地は積善寺のせきぐらう池の

右側ありといふ云々の西行谷

かの所のたまたまのり神

がまら谷のり神の敷中にある

矢野波々木神拜所△

年中行事にあつて内宮末宮野方

荒垣の角ちのり

宮比神拜所△

年中行事にあつて内宮末宮野方

玉垣の角真玉拜所の後ありと云

大山祇御祖神社△

宮中末社遷拜所其地は

地は宮内省の裏のり

父母宇津社△

熊淵社のり

石登宇社△

年中行事より出り五十餘の
川上と云ふ不詳

大國玉姫神社□

神祇考より出れども後或帳書不載
長考檢録文部省殿敷地ありといふ

高向神主氏社)

神祇考深み塩屋小寺と云ふと云詳

河田社)

神祇考深み出れと云不詳

石根社)

上宮大沼の末小寺と神祇考深
みありと云不詳

別當社)

離宮の坤ありと神祇考深み
ありと云不詳

湯田宇羽西津社)

宇羽御館のありと云と神祇考
深みありと云不詳

中津山田郷食社)

神祇考深み國生社の南ありといふ
杉の落葉云中津山田郷食社ハ中
須村の産神八王子社昔の西宮社
傳説ありといふ狭田國生社の南
ありといふといふ

湯田清階社)

三橋村の産神といふこと詳

三津橋河原社)

三橋村の産神といふこと詳

雷社)

神祇本原といふこと詳或云

小俣村の野のお柏村の産神

といふ雷社といふこと詳

真名胡社△

後田村の東北の海傍に後田子

といふ小祠といふこと詳

八束穂神社△

倭姫命世記といふこと詳大塚村

佐々年江社の傍にある

野依片嶋社)

神祇本原といふこと詳

園片宮社)

神祇本原といふこと詳或云

神園村の産神といふこと詳

鶏倉神戸大歳社)

神祇本原といふこと詳大塚村

の産神といふこと詳

柏木社)

大歳社申松原といふこと詳神祇

本原のありと不詳

慥柄神戸社

神祇本原は出づれと不詳

□久麻良比社

儀式帳の出づれも神祇式より
巧羅社のつく久麻良比社の載る

同社二名かまじつ不詳

伊射波神社△

宮中末社遥拜所の基は伊射波の
社地の射和村の裏町にあり又
同社の北の山根の上の山に
あり是の神祇式は出づる射

伊神社ありて伊射波の神

下段原神社□

伊賀戸神社の条ありて伊射波

内宮月讀の条ありて伊射波

下段原神社ありて伊射波

お段原とよみは伊射波の神

てオギハラとよみは伊射波

出づる萩原社ありて古事記よ

大杉谷 昔の度會郡ありてのれ

久豆村と俗に云ふ社ありて

伊神社に傳てんと云ふ野尻

の改めと云ふ一説ありて

野尻より川合村下菅村上菅村野

一里菅本を赤瀬村清水村船海あり

本田本を小切畑村繪馬村天ヶ瀬

村上菅より明豆村けいりよりちくゆけが

ありあり伊棟本村小瀬村神瀬村

乃より下子タキヤ滝谷村天ヶ原よりはり。

水谷かけ。大懸り。滝谷の地蔵堂

一里余 岩井村地蔵堂より半里余

横あり難あり久豆村岩井より村

み定社の宮人あり杉原氏より

三町多て古清瀬と云ゆり口定

は所より七町多て荻原神社め

いり里人の口定社より野尻より久豆村

まで九里より宮入松原氏と云て

泊る一又菅原田入の宮に一亦

田より菅原田入の宮に三瀬

村より天を瀬村はむゆり

又口定の下と大和谷と云ふ大和宮野川上

又奥定社の乃筋左の

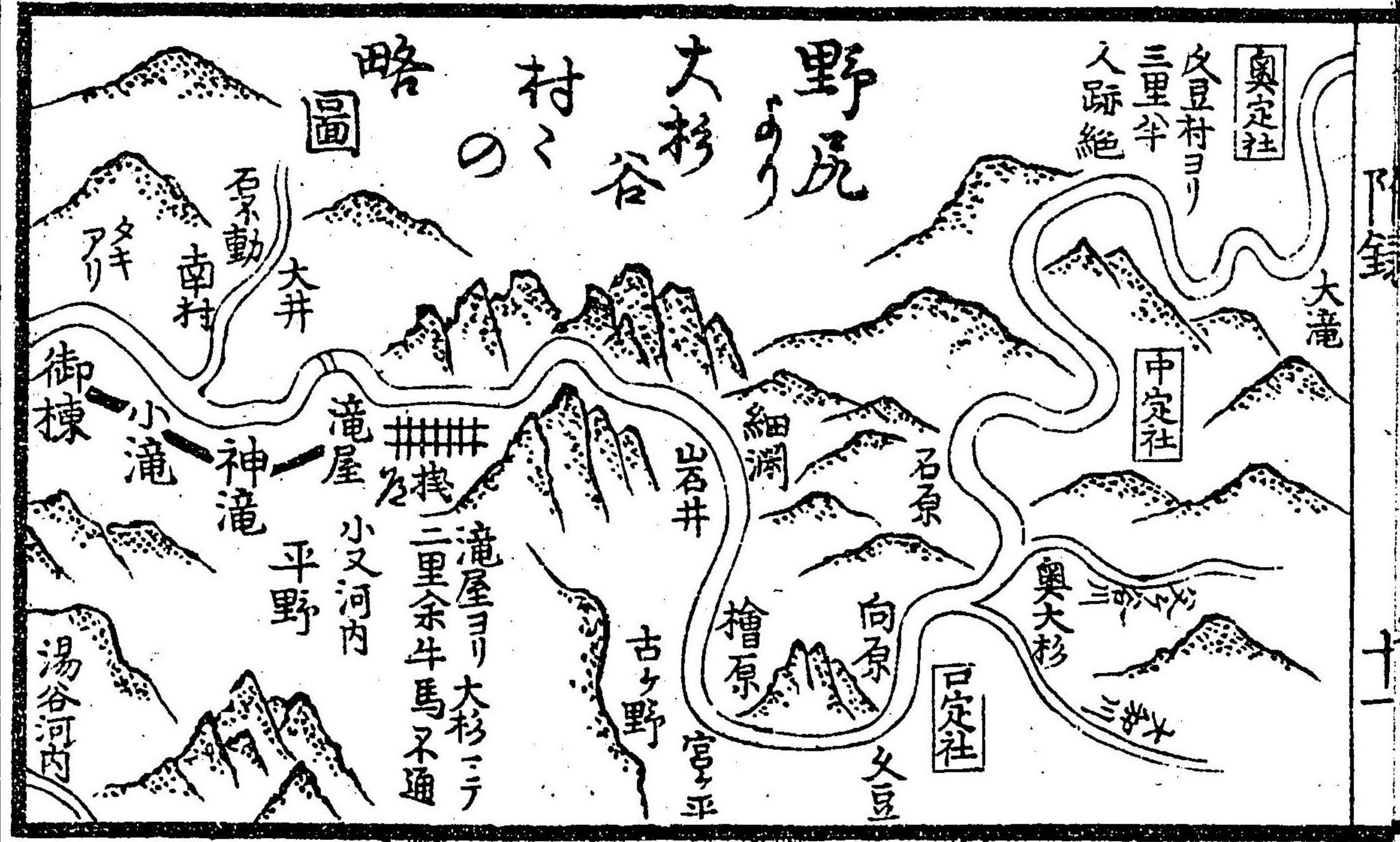
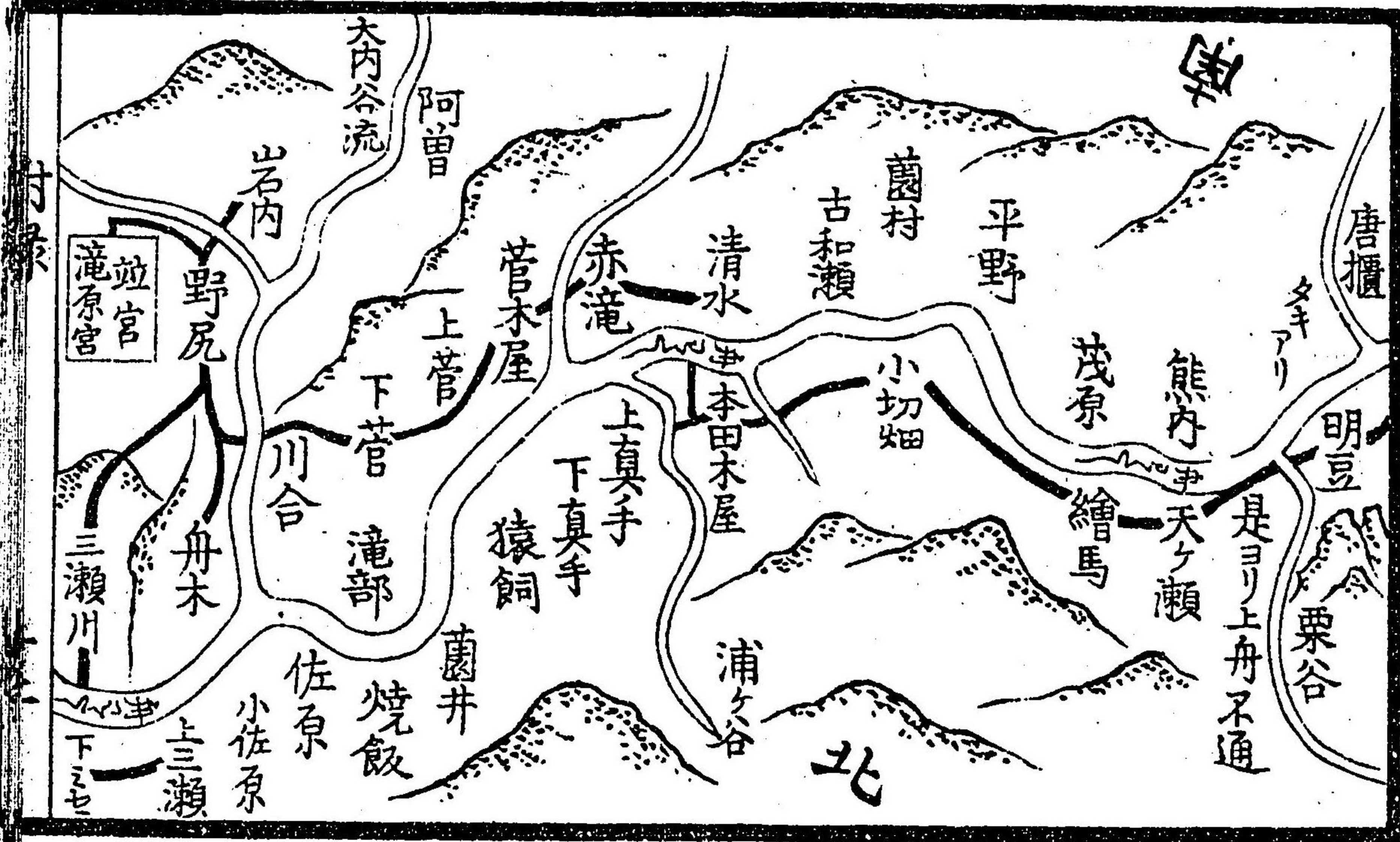
口定社より大和川より大和村

口定社より久豆谷川より中定社よ

いり乃より菅原田より大和村

またより久豆谷川より大和村

いり乃より菅原田より大和村



中定社より一里半余は西より東の
 山に熊野をなすありに里あり 定社
 又右の谷入りより東本谷と云く
 常谷大垣岡山流河と云く奥
 定社より大杉村より神後あり
 二里半余の神後あり

阿佐賀社

神後本原より西より一志郡大阿坂村
 二里より西より一志郡大阿坂村
 小阿坂村より同名の
 神社あり二社より俗に阿佐賀社
 と云ふ小阿坂の神社の辺り小
 片樋谷松尾のとき谷あり松尾

命世祀あり片樋宮とい所あり

荒前神社

カウサキ

俗にカブラコ

明神と云

荒前姫命

社地ハ志摩國志那安樂寺

あり。かつこの時よなき姫よ

海上二里あり

○是より以下の神社ハ年中行事ハ

神拜式宮中奉社通拜所ハ其より
 出られ今名詳の分ハ左ハ記す

天神社

連考中村産神森の中

西の方より

懸税靈神社

國見社

附録

十三

大社△

御伴神社△

高天原神社△

櫛玉神社△

矢野社△

雷社△

又神祇奉源よりきて今不詳の
分城左に記す

井中社○

中松原社)

神村社)

河原郷食社)

物忌御社)

又

志賣屋社○

此社の志賣屋社のりよるゝのり

四十末社八十末社遙拜所之事

神民須知云神祇本原内宮別宮篇

に云れり官樓の社には處未官樓の

社十五處合せて三十九所あり是は滝祭

と加へて四十野にけり年中行事神

拜式に出る社と加へ又天神鏡石等

に拾ひ朝熊神社江神社葎原神社

ちの家の形をくわくしつゝ十社に
 其の系形をくわくの遷拜所と説
 けり慶安遷宮の時今も遷拜所
 十社と書置ありまなち移りし
 所を復めてくわくしつゝ十社
 普く内宮に十社と記す
 といふ

外宮も其の形をくわくし
 と慶安遷宮の時海内本帳に
 十社と記す其後は復り
 と外宮にあり十社は遷拜所
 といふと十社を除くは十社

其後寛文九年と頼と揚ち移り
 と十社と記す其後は復り
 といふと十社を除くは十社
 といふと十社を除くは十社

御遷幸の舊跡

其の系形をくわくの遷拜所と説
 けり慶安遷宮の時今も遷拜所
 十社と書置ありまなち移りし
 所を復めてくわくしつゝ十社
 普く内宮に十社と記す

桑木名野代宮

桑木城より二里半あり西の
 野代村よりありけ村は神祇式に
 出する野志里神社あり美濃より
 伊勢よりありは助めりけはる
 一里半御鎮座の由路あり

オシヤニ
 忍山宮

龜山城よりあり野村のよりあり
 忍山オシより處より神祇式あり
 忍山神社俗は白鬚上ケ明神と云ありけあり
 一六ヶ月御鎮座の由路あり
 後式帳より河曲鈴麻小山宮あり

あり河曲郡と鈴麻郡とあり
 同一郡よりありけん

阿佐賀藤方片樋宮

松坂より二里ありあり一志郡大
 阿坂村より小阿坂村より阿射加
 神社より二社より俗は龍天宮
 といふ小阿坂の神社のより片樋
 谷より新なるの由路ありありあり
 一里半御鎮座より神祇式あり
 阿射加神社ありあり後式帳
 あり一里半藤方片樋宮ありあり世
 記より後式帳よりありありあり

又安濃津の南に藤方村あり
 のりく片柳宮の古蹟とて神
 森と云ふ所の名は後世好まれ
 人のたゞいふ事あり昔の今の
 藤方村ありて阿佐かといふ
 ことありてすべて藤方と云ふ
 ちの事なり

飯野高宮

飯野郡掃田川の傍に揚より
 十丁あり南に藤村といふ俗に
 山添の明神といふ神山の森あり
 四年御鎮座の古蹟ありけり

宇仁由の日記よりいれり御遷
 幸の記略よりいれり

佐々年江宮

美濃郡大湫村に命田橋と
 云ふところありて佐々年社といふ
 又藤方村の佐々年社といふ
 寺の庭にありて産神といふ
 ことありて橋の南にありて
 或る事あり

伊蘆宮

飯野郡阿波留村に古蹟あり
 所なりて古蹟あり

多氣郡下相可村の磯宮の
神社あり是のつとむらひの神名
秘書頭書ハ伊豫宮在^ニ多氣
郡^{アハリ}逢麻^{一本よは}村^{アサナハ}字古宮^{逢麻とあり}奈
古宮所也とあり。其の阿波宮は
飯野郡のつとむら相可村の川
邊にあり多氣郡のつとむら所
あり又度會郡磯村の磯神社
俗ハ王子^社とあり

瀧原宮

内宮別言ぬる瀧原宮^{野尻村}

是のつとむら

矢田宮

楠部村尾崎より一里の村あり
邊^{ナハテ}所^{ナハテ}駿^{ナハテ}より名あり
く矢田の地蔵とあり
あり矢田のつとむら
あり

家田田上宮

楠部村の尾崎の宇治奴鬼社あり
とあり今人のつとむら
あり

奈尾之根宮

村

楠部村ぬの皇女う孫の西の方
ありと或いふと不詳雜事記

治暦四年九月祭使浦田坂波

不向宇治岡の東道亦懸天井

面止云處乎トホリ徹天參宮其故字

祭宇志祿止云處居住下民

死去為違彼門也とあり又

内宮大永遷宮沙汰文の行事

官并道々細工人等令寄宿

岡田納米ナホミ縁邊在家とあり同和

のり物又或さひのナシシ祭尾之根

と那自賣ナジメと諸惣もちりけれ

那自賣社のまゝ山路ありまゝ

うゝの程考へて叔佐を年江

宮より祭尾之根宮まで

宮といふはの御鎮座をてけ

行宮カリヤより垂仁天皇廿六年十

月今の内宮に御鎮座より

くたゝめあり

以上内宮御遷幸の山路あり

鈴鹿神戸行宮

鈴鹿の神戸の神祇式雜例集

神風抄ありとていふありあり

亀山と園宿との間ある野尻村
 落針村小野村ダイカウジ村野村
 以上又子村と神戸の郷といふ
 御遷幸の由路は野尻村を俗
カラタチ又神館大神といひて大造の南
 の森あり御一宿ありしなり

山邊行宮

一志郡新家村ニあり 久居坂下の
湯妻村の十丁俗は牛頭天王といふ
あり西あり山邊行宮と立石あり御一宿
 ありし所なり

沼木平尾行宮

宮後町の北月護の森に東まで
 前に離宮院を至高河原社の
 由路ありといひし所なり三月月
 御遷座めてい行宮より雄畧
 天皇廿二年九月今の外宮小
 御鎮座まし〜カウジ

以上外宮御遷幸の由路あり

此書は著者AS Amason
 須拜のなきる(AS Amason著)は
 はくしてかゝる事あり

ちぢいと物まうし〜
 あ〜はもぬ〜の昔々〜
 たま〜〜〜
 ものをぬ〜
 書〜
 い〜
 両宮様まは独〜
 り〜

河崎清會

天保三年壬辰正月

飢饉年のしる

○木葉雜炊の事

柿栗柿胡桃素毒枸杞
 麦木樵枣虎杖常山 榎
 核 櫛 櫛 苳 苳

右の差を〜
 腹〜
 左の差を〜
 釜日〜
 釜〜

又 *Asplenium platyneuron* の葉を煎じて合入す

○ 花葉國の葉

花葉國の葉を湯煮して日乾し

して葉を合入す

花葉國の葉を合入す

○ 樺の葉國の葉

樺の葉を湯煮して日乾し

して葉を合入す

葉を合入す

救急乃葉

○ ままの葉

乾柿を合入す

○ 湯火傷の葉

葉を湯煮して合入す

Asplenium platyneuron

○ 煙の葉

大根の自然汁を合入す

○ 水

葉を湯煮して合入す

○ 痛およかまれの葉

葉を湯煮して合入す

葉を湯煮して合入す

葉を湯煮して合入す

火を消す

あつたての神のしんまてから後世
孫社といふにあらざれば
はと實文年中撰社再興のま
みんしきあつてまの國皇社と
建あつたまのしんまの

神村社

榎倉氏の古書に高向郷
加村といふ地名ありてまの地今
今のまの向村といふにあらざれば
思ふに今人の縣社^{アカタ}ちありて
つづる社と俗にカブラ社といふ
カブラは加村の流のしんまの

神村社といふにまの村には社といふ
村の産神といふにまの村の
從考へ亦固ま今宇須の野
社といふに里入の孫社といふに
のやも狸社の白狐といふにまの

真名胡社△舊跡

多氣郡濱田村 根倉村より
宇須の北 ありて
丁より東北の溪^{ハマ}邊は須^{エヒス}
社といふに 後川の
川尻にて 真名胡社
旧跡ありて まの村の
ありて
溪邊と白溪といふに

矢田宮 御遷幸の旧跡

楠部村御田の森より東南へ
 五丁むらり畔をよびて小坂河の
 上流より矢田の地帯と云ありけ
 坂より小川よつぎとニ丁むらり
 南へゆきて谷間の森は寶殿
 多居河の俗は楢柿の森と云いふ又矢田宮
 の田舎なることいふは
 河の字はアサナ矢田に於ては
 あら

小山宮 御遷幸の旧跡

内宮儀式帳に河曲鈴森小山
 宮といふを世記あるは恐山

宮と同野ありと思ひしは
 志の記一又儀式解にも思ひし
 くの所龜山のみ存在し
 といふ思ふに河曲郡神戶帳に
 神籬神明なる神社あり
 といふ傍にカタハラいふ所名もあれり
 恐山といふは異所なり小山
 宮といふは神戶ありは神籬
 神明ふありとや推考あり

鹿田別宮 御遷幸の旧跡

雄略天皇廿二年七月丹後国より
 豊受皇太神今の外宮に御遷

幸のおうし三月負弁郡藤田
別宮又徳庫一給ふしりり
社宮記録より又えりり伊勢岡
古記よあしりりりりりりりり
えされりりりりりりりりりり

定價八錢

明治十七年七月四日御届

三重縣平民

編輯 故河崎清厚

三重縣士族

校訂 喜早定徳

三重縣平民

出板人 河崎三郎

度會郡常磐町
百六十番地

